

親愛なる同僚諸姉、諸兄！

この数年来ドイツ語には二つの正書法が存在します。

その第一のものは、ゲーテ以来徐々に発展し、20世紀中を通じて維持されました。Theodor W. Adorno, Hannah Arendt, Ingeborg Bachmann, Walter Benjamin, Heinrich Böll, Elias Canetti, Paul Celan, Friedrich Dürrenmatt, Albert Einstein, Sigmund Freud, Max Frisch, Hermann Hesse, Franz Kafka, Niklas Luhmann, Thomas Mann, Robert Musil, Rainer Maria Rilke, Nelly Sachs, Arthur Schnitzler, Max Weber, Ludwig Wittgenstein らは、この正書法に準じ叙述し、かつ彼らの作品を出版したのであります。それは文学、哲学また学問におけるドイツ語の正書法であります。

その第二のものは、国家の政治的要請の中で創り上げられました。それは全く粗悪なものであり、正確なドイツ語の表現を困難なものとし、それにもかかわらず、この新しい正書法は国民の大多数の意志に反し、条令として制定され、学校教科書ならびに公用文書への使用が実行されました。ドイツ語を使用する知識人の大多数は、この国策的に制定されたドイツ語正書法を否認しております。ドイツ最大の日刊紙の一つである **Frankfurter Allgemeine** もこれを拒否しております。また最も著名な出版社（たとえば **Hanser, Suhrkamp, Diogenes, Piper**）も同様にこれを拒否しております。にもかかわらず、現在ドイツ、オーストリア、スイスの学校では、より良い正書法はもはや「古くなった」ドイツ語として子供たちに伝えられているのです！

残念なことに官僚側に立ち、「新しい」正書法の採用を決定した出版社が存在します。ドイツ語圏の著述家は、少なくとも自らの作品は従来の正書法に従い出版することを、これらの出版社に対し断固主張しております。しかし外国語からドイツ語に翻訳された書物の著述家は、その作品の出版にさいし全く影響力をもちえません。つまり、ドイツ語文学作品は例の「古くなった」正書法に

準じて出版が継続される一方で、他方では翻訳された外国文献は、条令で義務付けられた「新しい」正書法に準じて、たとえば出版社 **S. Fischer** あるいは **Rowohlt** などから刊行されているのです。

親愛なる諸兄、私たちは皆さんに私たちの試みへの同意と支持をお願いしたいと思ひます。つまり従来どおりのドイツ語正書法に準じた出版をあなたの次の作品を出版する出版社に対して、私たちと同様に要求することを。それはまた、あなたの読者のためなのです。

敬具

Horace Engdahl Hans Magnus Enzensberger Georges-Arthur Goldschmidt
Günter Grass Lars Gustafsson Elfriede Jelinek György Konrád Reiner Kunze
Stanisław Lem Siegfried Lenz Claudio Magris Harry Mulisch Adolf Muschg
Sten Nadolny Cees Nooteboom Patrick Süskind Martin Walser Christa Wolf

ベルリン、2003年10